

(1) 実践内容「単元のまとめ『Project』の効果的な指導」

○ 単元 第1学年 「Project 1 自己紹介をしよう」 4時間

① Step1「マッピング」

教科書の例を参考に、書くテーマをいくつか与え、イメージマップに書かせる。この活動を行うことで、具体的な情報や自分のことに関して、客観的に振り返らせることができる。また、苦手な生徒については、教科書に沿って行っていくことを助言する。

② Step2「借文」

書く内容が定まったところで教科書や副教材、授業で使用したワークシートなどから使えそうな文や表現を引用させる。全体で借文について説明を行った後、各自のテーマや書きたい内容にあった表現を借文させることで、多くの生徒がスピーチの材料を自力でそろえることができた。

③ Step3「原稿作成」

文章構成を考えながら、自分の言葉と借文した英文を組み合わせ、スピーチの下書きを作成させた。JTE 意外にも、生徒の中から原稿を完成させた生徒を **Student Teacher** として、苦手な生徒の補助を行わせた。生徒は自分のスピーチを自信をもって作成することができた。

④ Step4「スピーチ練習と観点表示」

自分の作成したスピーチにジェスチャーや抑揚を付けながら音読練習をさせる。自分の言葉として英文を話すことを心掛けさせた。

また、グループ発表の後に、ALT と個人個人でスピーチテストを行うことを伝え、その際の採点項目を「ACDC」と呼び、「A…accuracy」、「C…contents」、「D…delivery」、「C…communication」と周知させた。

⑤ Step5「発表」

最初に少人数グループで発表を行わせた。一人一人の発表に一言コメントを付けさせることで、相手の発表を能動的に聴こうという姿勢が生まれた。その後、別室にて、ALT の前で一人ずつ発表を行った。

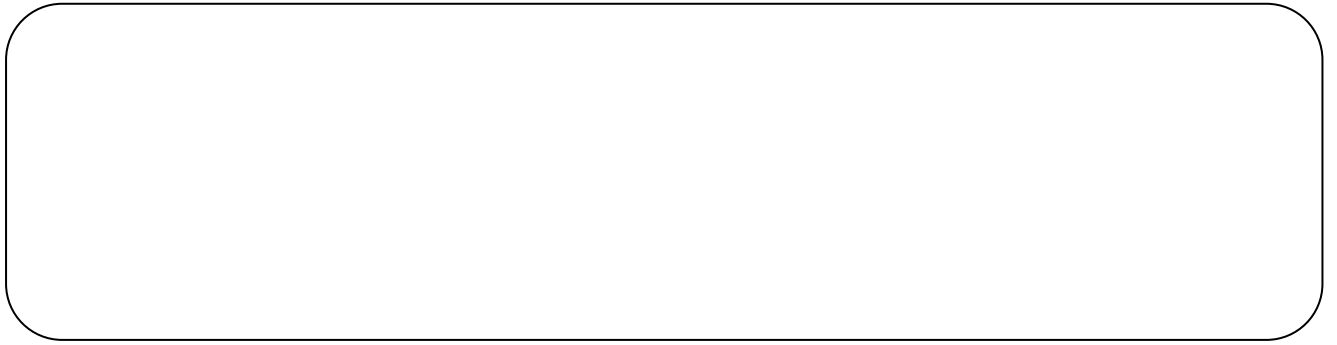
(2) 成果・課題

単元のまとめとして位置づけられている **Project** を充実した活動にするためには、上記のように段階的に指導していくことが必要である。その中でも、**Step2**「借文」の作業は生徒に自信を付けさせる効果的な活動と言える。どのように書いたらよいか困る生徒も教科書をもとにすればよい、ということに気付くことで、活動に能動的になる。また、**Student Teacher** も英語の得意な生徒の意欲付けとなった。**Step4,5**で発表の観点を明示することで、発表の動機付けとなった。一方で、苦手な生徒ほど発表の声が小さかったり、相手の顔を見て話すことができていなかったりと、日々の指導の積み重ねの重要性を感じた。

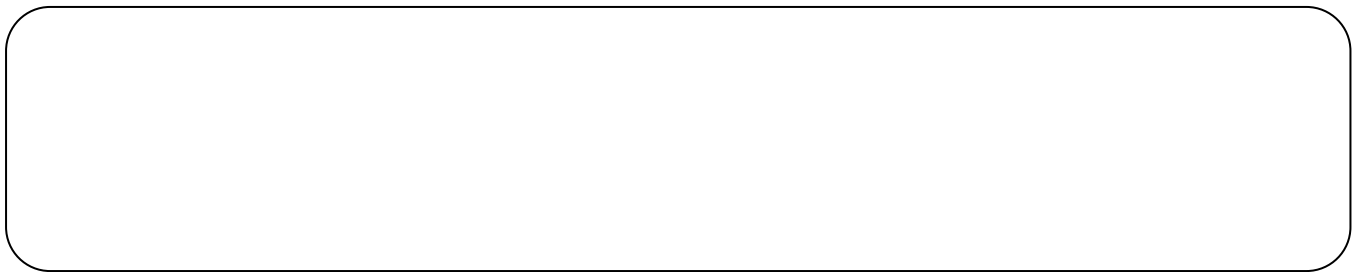
1年時から継続的に **Project** を上記のような **Step**で行っていくことで、生徒に英語を書く・話すことに対しての自信を付けさせるだけでなく、基本文の定着を図ることができたり、教科書の重要性に目を向けさせたりすることができると思う。

Project① 自己紹介をしよう

Step1 何について自己紹介しますか。日本語で書き出してみよう。



Step2 教科書やドリルブック、プリントから使えそうな文を書き出してみよう。



Step3 Step1,2 をもとに、つながりを考えて文章にしてみよう。



Class

No

Name